We will be opening the studios of our three resident artists Timoteus from Indonesia, Stephanie from UK & Eduardo from South Africa who are spending the 2015 110-day program at Moriya, Ibaraki. We cordially invite you to ARCUS Studio, on 14-22 November between 13pm to 19pm. (except 16 Monday) Looking forward to seeing you, ARCUS Project 2015 Ibaraki

ARCUS Project 2015 IBARAKI ARTIST IN RESIDENCE PROGRAM

2015年11月14日[土] -22日[日](16日[月]休館) 13:00 - 19:00

会場:アーカススタジオ(もりや学びの里内) | 入場無料

アーカスプロジェクトのレジデンスプログラムは今年度で22年目(※プレ事業含む) となりました。1994年から今日までに私たちは30カ国・地域から94名のアーティスト を招聘し、活動を支援してきました。今年度は、3名の海外招聘アーティストが110 日間、茨城県守谷市に滞在し、リサーチや制作をしています。「オープンスタジオ」 は、彼らが滞在中に行ってきたプロジェクトの経緯や活動成果を発表し、皆様と共 有する特別な機会です。彼らの感性が捉え続けた110日間の活動の蓄積を体験 しに、ぜひ彼らのスタジオへお越し下さい。

オープンスタジオ | OPEN STUDIOS

2015年11月14日[土] - 22日[日](16日[月]休館) | 13:00-19:00 | November 14 [Sat] - 22 [Sun] (ex.16 [Mon])

関連プログラム | RELATED PROGRAM

1 キッズツアー | Guided Tour for Kids

11月14日[土] · 21日[土] | November 14 [Sat], 21 [Sat] | 14:00-15:00 子どものためのスタジオ鑑賞ツアー。各日定員15名[定員に達し次第締め切ります。]※要予約 予約方法:参加希望日、氏名、年齢、連絡先、参加人数をアーカススタジオまでご連絡下さい。

2 アーティストプレゼンテーション Presentation by Resident Artists

11月15日[日] | November 15 [Sun] | 14:00-15:00 レジデントアーティストが自身の活動を紹介します。

3 オープンディスカッション Open Discussion

11月15日[日] November 15 [Sun] | 16:00-18:00

「サイト/地域に特化するとは?――アーティスト・イン・レジデンスと国際芸術祭」

Site Specificity and Regional Specificity: Artist in Residence and International Art Festival アーティスト・イン・レジデンスと国際芸術祭はいずれも、ある地域に特化した固有の芸術文化活動であることが求められます。一方、 アーティストや観客の動きが流動的となった今日、特化すべき先は果たして「サイト/場(site)」、「地域(region)」、それとも「コミュニ ティ/人々」でしょうか? 本トークセッションではお二人のゲストを招き、「地域に特化する・固有であるとはどういうことか」という問いに 立ち返って、レジデンスと芸術祭と美術館がいかにしてしなやかで生産的な関係を築き得るか、多角的に話し合います。

| スピーカー | 星野太(研究者 美学/表象文化論)、小田井真美(AIR 勉強家/アートプロデューサー)、

飯田志保子(ゲストキュレーター 2015)、レジデントアーティスト《敬称略・順不同》

Speakers: Futoshi Hoshino (Researcher Aesthetics & Culture and Representation Theory),

Mami Odai (AIR Researcher/Art Producer), Shihoko Iida (Guest Curator 2015), Resident Artists

| 4 | アーティストトーク×飯田志保子 | Artist Talks × Shihoko Iida

11月18日[水] | November 18 [Wed] | 15:00-18:00

3人のレジデントアーティストと飯田志保子氏が、共に各々の活動についてスタジオで対談します。

5 アーティストパフォーマンス Artist Performances

11月22日[日] | November 22 [Sun] | 14:00-16:30 レジデントアーティストによるパフォーマンス。

6 クロージングパーティー Closing Party

11月22日[日] | November 22 [Sun] | 18:00-19:00

| 7 | スタジオツアー | Guided Tour by Coordinators

会期中※15日[日]、18日[水]、22日[日]を除く | During the period. ex. 15 [Sun], 18 [Wed], 22 [Sun] | 16:00 – 17:00 コーディネーターによるガイドつきスタジオ鑑賞ツアー。※要予約 | Booking is required. 予約方法:参加希望日、氏名、連絡先、参加人数をアーカススタジオまでご連絡下さい。

タイムテーブル、内容については変更になる可能性があります。最新情報は公式 HP(www.arcus-project.com) でご確認ください。 Program and timetable are subject to change. Please check update information on our website.

アーカスプロジェクト 2015 いばらき | ARCUS Project 2015 IBARAKI

アーカスプロジェクトのアーティスト・イン・レジデンスプログラムについて

茨城県守谷市を拠点に活動しているアーカスプロジェクトでは、1994年(プレ事業含む)から 若手アーティストの滞在制作支援を目的にアーティスト・イン・レジデンスプログラムを運営し ており、これまで94名のアーティストを国内外から招聘しています。今年度は3名の招聘枠 (公募)に対して、81ヶ国・地域から599件の応募があり、現代美術分野における若手アーティ ストの登竜門として国際的に認知されています。多くのアーティストがアーカスプロジェクトを きっかけに国際展への出展を行うほか、滞在中に制作した作品が海外の美術館に収蔵され るなどのキャリアを積んでいます。

ARCUS Project ARTIST IN RESIDENCE PROGRAM

ARCUS Project organizes the artist-in-residence program in Moriya, Ibaraki. Established in 1994, it aims to support promising artists from across the world to engage in creative activities. So far, 94 artists have been hosted by the scheme. In the latest open call for applications, three artists were selected from 599 applications from 81 different countries and regions, which shows that ARCUS Project is attracting a high level of interest from overseas artists. Former resident artists of ARCUS Project are distinguishing themselves in the international art scene, supporting the ambition of ARCUS Project to be a gateway to the world for young artists.

アーカスプロジェクト実行委員会(茨城県、守谷市、公益財団法人茨城県国際交流協会) 茨城県南芸術の門創造会議(茨城県、取手市、守谷市、東京藝術大学、 取手アートプロジェクト実行委員会、アーカスプロジェクト実行委員会)

平成27年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業、

株式会社千葉銀行、アサヒビール株式会社茨城工場

公益財団法人花王芸術·科学財団、公益財団法人朝日新聞文化財団

インドネシア共和国大使館、ブリティッシュ・カウンシル、南アフリカ共和国大使館

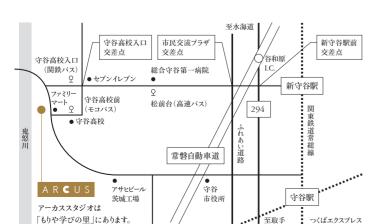
関彰商事株式会社、鹿島埠頭株式会社、株式会社髙橋合金、茨城県信用組合、 株式会社常陽銀行、筑波都市整備株式会社、株式会社筑波銀行、守谷市金融団、

学校法人開智学園開智望小学校、関東鉄道株式会社、守谷市商工会、 株式会社つくば研究支援センター、茨城県信用保証協会、中央労働金庫、 株式会社ジョイフル本田、株式会社茨城ポートオーソリティ、茨城みなみ農業協同組合、

公益社団法人企業メセナ協議会

アサヒビール株式会社、株式会社レオパレス21、さくら坂 VIVACE、ハンスホールベック、 寿し屋の小平治、特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

ART ROUND EAST, ResArtis



[アーカススタジオ] 〒302-0101 茨城県守谷市板戸井2418 もりや学びの里内 2418 Itatoi, Moriya, Ibaraki 302-0101 JAPAN | Tel:+81(0)297 46 2600 mail: arcus@arcus-project.com | www.arcus-project.com

交通のご案内

[電車・バスの場合] つくばエクスプレス(秋葉原より快速で32分)、ま たは関東鉄道常総線で「守谷駅」下車。駅西口2番乗り場から 関鉄バス「新守谷駅」行きで「守谷高校入口」下車。徒歩5分。 または駅西口1番乗り場からモコバスAルート、毎時20分発の 「いこいの郷・板戸井方面」で「守谷高校前」下車。徒歩2分。

公益財団法人 花王 芸術·科学財団

茨城県信用組合

守谷市金融団

■ 開智望小学校 ● 開東鉄道株式会社

守谷市商工会 《《 茨城県信用保証協会

株式会社つくば研究支援センター

株式会社 茨城ポートオーソリティ

JA茨城みなみ

Asahi

Leopalace 21

公益財団法人朝日新聞文化財団

ブリティッシュ・カウンシル 南アフリカ共和国大使館

インドネシア共和国大使館

♦TAK-G

[車の場合] ふれあい道路を水海道方面へ直進。「市民交流プラ ザ交差点」を左折して直進。または常磐自動車道「谷和原 I.C.」 から約10分、国道294号線を守谷/取手方面に進み「新守谷 駅前」交差点を右折。「守谷高校入口交差点」左折すると左手に 守谷高校、正面が「もりや学びの里」です。・駐車場に限りがあります。



ティモテウス・アンガワン・クスノ | Timoteus Anggawan Kusno | インドネシア / Indonesia

2015年度招聘アーティスト | RESIDENT ARTIST 2015

1989年インドネシア・ジョグジャカルタ生まれ、在住。2012年ガ ジャ・マダ大学(ジョグジャカルタ)政治・社会学部コミュニケーショ ン学科にてメディア・スタディーズ学士号取得。制作にはドロー イング、グラフィック・デザイン、写真、映像、文学作品の執筆や 編集と多岐にわたる技法を用いる。2014年に「Ethnography Exhibition by Center for Tanah Runcuk Studies: Memoar Tanah Runchuk」(クダイ・クブンフォーラム、インドネシア、2014)を開催。 植民地時代から伝わる実存不確かな領土をめぐるフィクショナル な研究を構築し、地域住民や木工、版画、製本、皮細工職人との コラボレーションによって、そのストーリーに血肉を与える作品群を 創出した。その他主な展覧会に「Liminal」(チュムティ・アートハウス、

2012)などがある。

Born in Yogyakarta, Indonesia in 1989. Lives and works in Yogyakarta. In 2012, Timoteus Anggawan Kusno obtained a B.A. in media studies in the Social and Political Science department at Gadja Mada University (Yogyakara). Kusno uses a wide range of production techniques—drawing, graphic design, photography, video, and writing and editing literature. In 2014, he held a solo exhibition, "Ethnography Exhibition by Center for Tanah Runcuk Studies: Memoar Tanah Runchuk" (Kedai Kebun Forum, Indonesia). Constructing fictional research into territories whose existence, although unconfirmed, has been passed down since colonial times, Kusno gives flesh and blood reality to stories through collaborations with regional residents, woodcraft, printing, book-making, and leatherwork artisans. His major exhibitions of such work include "Liminal" (Cemeti Art House, Indonesia, 2015) and "Les Tonerres de Brest 2012" (Brest, France, 2012).

ステファニー・ビックフォード=スミス | Stephanie Bickford-Smith | 英国/UK



1989年英国・ヘルストン生まれ、ハートフォードシャー在住。2014 年ロイヤル・カレッジ・オブ・アートにてデザイン・インタラクション修 士課程修了。主な展覧会に「Always Print The Myth」(ヴィクトリ ア・アンド・アルバート美術館、ロンドン、2015)、「THE PARTY」(ヴィラ ク ローチェ現代美術館、ジェノヴァ、伊、2014)、「Buy Buy Buy, Sell」(ロイヤ ル・カレッジ・オブ・アート、ロンドン、2014)などがある。人が労働や雇用の 機会を通して現代社会のなかで役割を模索することや、ある理想 へ近づくことの困難さを主題にパフォーマンスや映像作品を制作し ている。インタビュー、自撮り、行動パターンの分析・図式化、収集物 の分類・展示といった手法を用い、自らホテルの客室清掃員になっ て覆面調査を行うなど、理想と現実の間のジレンマに対峙しながら 実体験を物語る。社会に横たわる道徳的・倫理的な境界に挑みつ つ、ユーモラスな映像が特徴的な若手アーティスト。

インドネシア、2015) [Les Tonnerres de Brest 2012] (ブレスト、仏、

Born in Helston, UK in 1989. Lives and works in Hertfordshire, UK. Stephanie Bickford-Smith obtained an M.A. in Design Interactions at Royal College of Art, London in 2014. Her major exhibitions include "Always Print The Myth" (Victoria & Albert Museum, London, 2015), "The Party" (Villa Croce Contemporary Art Museum, Genoa, Italy, 2014), and "Buy Buy Buy, Sell" (Royal College of Art, London, 2014). Bickford-Smith creates performances and video works that examine how people seek a role in contemporary society through work and occasions for employment, as well as the difficulty of achieving a particular ideal. Using such methods as interviews, selfies, action pattern analysis and diagramming, and categorization and display of collected items, she herself becomes a hotel room cleaner and undertakes undercover investigations. Confronting the incongruity between ideal and reality, she relates her experiences. Bickford-Smith is a distinctive young artist creating humorous video works that question the boundaries of virtue and reason in society.

エドゥアルド・カシューシュ | Eduardo Cachucho | 南アフリカ/South Africa



1985年南アフリカ・バンダービールパーク生まれ、ベルギー在住。 2008年ウィットウォーターズランド大学(ヨハネスブルグ)で建築修士 号取得。2015年ダッチ・アート・インスティテュート(アーネム)にて美 術修士課程修了。主な活動として「GIPCA Live Arts Festival」 (Gordon Institute for Performing and Creative Arts、ケープタウン大学、南 アフリカ、2014)、「BORG2014, Biennial event for contemporary art | (アントワープ、ベルギー、2014) がある。また 2012 年には第13回 ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展(伊、2012)でアメリカ館のグ ループ展「Spontaneous Interventions」に携帯電話用のアプリケー ション作品で参加。2011年にチッタデラルテ・ファウンダチオーネ・ ピストレット(伊)、2015年にCSAV – Artists Research Laboratory (アントニオ・ラッティ財団、伊)のレジデンスプログラムに参加。植民地 時代を経た南アフリカの過去と現在、そこにもたらされた言語や教 育システムに対する関心を立脚点に、長期的なリサーチ・プロジェク トや映像作品の制作、また映像を伴いカシューシュ自身が登壇す るレクチャー・パフォーマンスを行っている。

Born in Vanderbijlpark, South Africa in 1985. Lives and works in Belgium. In 2008, Eduardo Cachucho obtained an M.A. in architecture at Witwatersrand University (Johannesburg). In 2015, he received an M.A. in fine arts at Dutch Art Institute (Arnhem). His major activities include "GIPCA Live Arts Festival" (Gordon Institute for Performing and Creative Arts, University of Cape Town, South Africa, 2014) and "BORG2014, Biennial event for contemporary" (Antwerp, Belgium, 2014). In 2012, Cachucho took part in "Spontaneous Interventions," a group exhibition in the U.S. Pavilion at the 13th International Architecture Exhibition—la Biennale di Venezia (Italy), where he submitted an app for mobile phone artwork. His previous participations in residency programs include Cittadellarte-Fondazione Pistoletto (Italy) in 2011 and CSAV-Artists Research Laboratory (Antonio Ratti Foundation, Italy) in 2015. Based on his interest in South Africa's colonial past and the systems of language and education that past has engendered, he produces long-term research projects and video works. He also produces lectures and performances in which he himself appears along with video imagery.

ゲストキュレーター 2015 | GUEST CURATOR 2015

飯田志保子 | Shihoko Iida | キュレーター・東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科 准教授 Curator / Associate Professor, Department of Intermedia Art, Faculty of Fine Art, Tokyo University of the Arts

1998年の開館準備期から2009年まで東京オペラ シティアートギャラリーに勤務。2009年から2011年ま でオーストラリアにてクイーンズランド州立美術館内の 研究機関ACAPAに客員キュレーターとして在籍後、 韓国政府主催CPIプログラムにより2011年度イン ターナショナル・フェローシップ・リサーチャーとしてソウ ルに滞在。帰国後、近年は「第15回アジアン・アート・ ビエンナーレ・バングラデシュ 2012」、「あいちトリエ ンナーレ2013」、「札幌国際芸術祭2014」など国際 展のキュレーターを歴任。キュレーターとして展覧会企 画、寄稿、講義などの活動を行う傍ら、2014年10月よ り東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。

Shihoko Iida is curator based in Tokyo and Nagoya, Japan. Iida worked at the Tokyo Opera City Cultural Foundation as curator from 1998 until August 2009. From October 2009 to July 2011, she worked as visiting curator in Australian Centre of Asia Pacific Art (ACAPA) in the Queensland Art Gallery/Gallery of Modern Art in Brisbane. Following to that, Iida stayed in Seoul for four months as 2011 International Fellowship Researcher hosted by National Museum of Contemporary Art, Korea. After returning to Japan in 2012, she consecutively worked as official curator of Japan participation for 'The 15th Asian Art Biennale Bangladesh 2012', Co-curator for 'Aichi Triennale 2013' and Associate Curator for the first 'Sapporo International Art Festival 2014'. Since October 2014, she has started working as Associate Professor of department of Intermedia Art at Tokyo University of the Arts.

アーカスプロジェクトでは、2012年度より招聘アーティストの活動を専門的な観点から支援するため、外部キュレーターをゲストキュレーターとしてお招きしています。 Since 2012, ARCUS Project has been inviting curators for our residence program as guest curators. This year ARCUS Project welcomes Ms. Shihoko Iida, a curator and Associate Professor, Department of Intermedia Art, Faculty of Fine Art, Tokyo University of the Arts. She works as the program curator during the period of residence program.